

磯城郡三宅町は2月24日、同町文化ホールで総合防災訓練を実施し、奈良県防災士会は訓練に協力した。

訓練は、全体研修として「大雨が降ると三宅町はどうなるのか？」をテーマに工学博士でもある川口防災士による講演から始まった。講演では、大和川が持つ降雨増水時の脆弱性を丁寧に説明され、王寺町を大阪府側に出た亀の瀬と呼ばれる地域が河川のボトルネックになっていること。この河川特性によって降雨時に河川が増水しやすいこと。増水による内水氾濫は三宅町内全域にわたるが、その中でも地域によって違うこと。昨年が発生した岡山県倉敷町真備町洪水災害は河川本流に流れ込む支流河川の氾濫の連鎖が重篤な災害をもたらした。これは、大和川に流れ込む曾我川、飛鳥川、寺川といった近接河川を持つ地域である三宅町と酷似しており、同様の災害が懸念されること。また、2011年の東日本大震災と同じ年の9月には、紀伊半島大水害が発生し十津川村などで甚大な被害があったことを関西電力の長殿発電所壊滅状況を踏まえながら説明され、この災害を契機に3日間で2000mmの降雨量は「もはや想定外とは言えない」といった日本気象協会コメントを参加者で共有した。講演のまとめとして、水害はある程度予見される災害でもある。住民相互に声を掛け合い、「早めの避難」が人的被害を避ける手段であること。そのための日常の取り組みが重要であることを訴えた。

引き続き、災害時に役立つ小技、簡易担架、車いす体験、洪水時の水位確認の4つの訓練で奈良県防災士会が指導、助言、協力を行い住民参加者の防災知識、防災意識の高揚に貢献した。

最後に、今回の訓練の講評をNHK奈良放送局アナウンサーでもある大川防災士が述べられ訓練を終了した。



川口防災士の講演の様子



質問に答弁する川口防災士



負傷者搬送



車いす体験



簡易担架



給水訓練の様子



給水訓練



水位確認（50cm、1m）



水位確認（5 m）



車での避難の危険性を説明



役立つ小技



大川防災士による講評

